

3 文化芸術・生涯学習、スポーツ活動を活発にする

(1) 区民の文化芸術・生涯学習活動を支援する

●美術展示事業

身近な場所で芸術鑑賞ができるように公共施設での絵画展示事業と野外彫刻の設置を行っている。

絵画展示事業は、練馬区美術家協会の協力により昭和51年から区内の公共施設に絵画を展示し、年1回展示替えを行っている。平成25年3月31日現在、区内35施設で81作品を展示している。

野外彫刻事業は、区内の公共施設や公園などに彫刻作品を整備するもので、昭和58年から行われている。平成5年に、区内在住の長尾幸作氏の寄付を基に練馬区芸術作品設置基金が設立され、これを財源として設置された7作品を含め、25年3月31日現在、41作品が各所に設置されている。

●文化芸術振興支援事業

幅広い世代に音楽鑑賞の機会を提供する「ワンコイン・コンサート」を実施した。また、区内の文化芸術を共に振興していくため、区内大学と連携して、文化芸術資産の調査研究（武蔵大学）、「ヘトヴィヒ・ビルグラム オルガン・リサイタル（武蔵野音楽大学）」、「エレナ・オブラストワ メゾ・ソプラノ・リサイタル（武蔵野音楽大学）」、「武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会」、「『練馬ゆかりの名作映画』鑑賞会（日本大学芸術学部）」を実施した。

●文化芸術振興施策の推進

平成17年に制定、策定した「練馬区文化芸術振興条例」、「練馬区文化芸術の振興に関する基本方針」に基づき、様々な取組を進め、また22年度には、「練馬区文化芸術振興計画」を策定し、総合的、計画的に事業を推進することとした。23年度には区内大学や練馬区文化芸術協会に加え、区内の文化芸術団体と協働して、それぞれの特性を活かしながら区内の文化芸術の振興施策を共に進めるために、「練馬区文化芸術振興連絡協議会」を設置した。

●文化芸術資産活用事業

区にゆかりのある文学者・芸術家等の作品をはじめとする文化芸術資産を収集・保存・公開するため、平成19年12月に「文化芸術資産の収集・保存・公開についての基本方針」を策定した。

●練馬区文化芸術協会

練馬区文化芸術協会は、区民文化の向上および振興のための事業を行い、区民の自主的な文化活動の促進を図り、豊かな区民文化の創造に寄与することを目的として、区が出資し、昭和57年9月に設立された。平成24年4月1日には、国の公益法人制度改革を受け、公益財団法人へ移行した。

協会は、23年3月に初めて策定したアクションプランに基づき、練馬文化センター・大泉学園ホールを主な会場に文化芸術の鑑賞機会の提供や、区民に身近な場所でのコンサートの実施など、様々な事業を展開している。また、20年度から、区が一括で譲渡を受けた芥川賞作家・五味康祐氏の遺品の研究や活用を行うなど、新たな事業への取組を進めている。さらに、区の文化芸術に関わる組織の一元化を受け、区の文化振興を担う公的な団体として、これまでに培った音楽や舞台芸術分野における実績を活かしながら、多様な分野での事業展開に努めている。24年度には設立30周年を迎えたことから、記念事業を実施するとともに、記念誌「30年の軌跡」を作成した。

事業内容はつぎのとおりである。

1 区民文化の向上および振興のための事業

(1) 舞台鑑賞事業（22事業）

優れた音楽・古典芸能などを身近な場所で鑑賞する機会を提供した。

(2) 地域活動事業（40事業）

区役所本庁舎アトリウムにおいて、毎月1回「アトリウムミニステージ」を実施したほか、練馬まつり等の地域イベントや障害者施設・高齢者施設等に演奏家を積極的に派遣した。また、小学校へ狂言師を派遣し、狂言ワークショップ（体験教室）を行った。

(3) 練馬文化センター友の会事業

会員数1,350人（24年度末現在）

(4) 文化芸術資産活用事業

石神井公園ふるさと文化館で、石神井に長く住んだ檀一雄氏の生誕100年記念「練馬を愛した作家・詩人檀一雄展」を開催した。また、五味康祐氏の収集品である貴重なオーディオ装置、レコードの公開事業としてレコードコンサートを実施するとともに、練馬区に住んだ作家・瀬戸内寂聴氏による「瀬戸内寂聴文学講演会—文学への思い、私の生きる道」を練馬文化センターで開催した。

2 区民の自主的な文化活動の促進に関する事業

(1) 区民参加事業（6事業）

「レクチャーコンサート」などの学習型事業やワークショップを実施した。また、「篠田三郎 朗読の世界」や青少年を中心とした「アカペラフェスティバル」など区民参加事業を実施した。

(2) 人材育成活用事業

① オーディション合格者による新人演奏会の実施

② 「練馬区演奏家協会」との協働

区にゆかりのある演奏家等により18年3月に設立された練馬区演奏家協会による、レクチャーコンサートの開催や、区内イベントへの派遣・あっせ

んなど、新進演奏家への活動の場の充実を図った。

(3) 連携支援事業

① 文化活動支援補助事業

区民の自主的な文化芸術活動を支援する観点から、練馬文化センター、大泉学園ホールを拠点として活動している登録文化団体等に対し施設使用料の補助を行った。

② 練馬交響楽団の活動支援

③ 舞台芸術支援事業（6事業）

④ 区内三大学連携事業（6事業）

区および区内の三大学と連携し、特色ある事業を実施した。24年度は武蔵野音楽大学および日本大学芸術学部と連携事業を行ったほか、武蔵大学学芸員課程の実習の場で、五味康祐氏遺品の一部

を活用する試みを開始した。

(4) 文化芸術情報発信事業

区内を中心として文化芸術活動を行っている団体等を協会の登録文化団体とし、各団体の活動情報を協会ホームページを通して発信した。

●練馬文化センター

練馬文化センターは、区民文化の向上および振興のための事業や、区民の自主的な文化活動促進のための事業を行うことを目的として、昭和58年4月に開館した。平成18年5月に完了したリニューアル工事により、各所にユニバーサルデザインを取り入れ、より誰にでも使い易いホールへと生まれ変わっている。

18年4月からは、大泉学園ホールとともに、指定管理者が施設管理を行っている。

練馬文化センターの利用状況

平成24年度

施設名		大ホール	小ホール	ギャラリー	リハーサル室	集会室	計
区分							
入場者数(人)		273,229	132,039	10,049	56,492	18,279	490,088
利用件数(件)		666	733	145	2,380	1,138	5,062
利用率(%)		73.7	78.9	44.5	81.5	58.3	72.0
主催者別 利用件数	件	件	件	件	件	件	件
	官公署・教育機関	149	99	1	186	37	472
	登録文化団体	14	18	0	195	63	290
	一般団体	397	515	126	1,637	975	3,650
	文化振興協会	47	77	2	237	17	380
	練馬区	59	24	16	125	46	270

注：「利用件数」は、午前・午後・夜間の各区分を1件とする。ただし、ギャラリーについては、1日を1件とする。
「利用率」は、利用件数を利用可能件数で除したものである。

●大泉学園ホール（大泉学園ゆめりあホール）

区民に文化的交流の場を提供し、区民文化の創造と発展に寄与することを目的として、平成14年2月1日に開館した。施設は大泉学園駅北口再開発ビル〔ゆめりあ1〕内にあり、5～6階部分に176席のホール、7階部分に展示ギャラリー（ゆめりあギャラリー）がある。練馬文化センターの姉妹館として位置づけられ、ホールの利用率は高い。

大泉学園ホールの利用状況 平成24年度

区分	施設名			
	ホール	ギャラリー	計	
入場者数(人)	49,643	10,099	59,742	
利用件数(件)	892	184	1,076	
利用率(%)	89.7	52.9	80.2	
主催者別 利用件数	件	件	件	
	官公署・教育機関	38	0	38
	登録文化団体	10	0	10
	一般団体	820	184	1,004
	文化振興協会	22	0	22
練馬区	2	0	2	

注：「利用件数」は、ホールについては午前・午後・夜間の区分を1件とし、ギャラリーについては1日を1件とする。

「利用率」は、利用件数を利用可能件数で除したものである。

●美術館

練馬区立美術館は、区民の美術に関する知識および教養の向上を図ることを目的に、昭和60年10月に開館した。

美術館の事業運営についての幅広い意見を反映させ

る場として、美術館運営協議会を設置している。この協議会は、美術に関する学識経験者、美術作家および学校教育関係者等で構成され、美術館の運営方針や事業計画を中心に協議を行っている。

1 展示事業

(1) 企画展

美術に関する調査に基づき自主企画の展覧会を平成24年度は4回開催した。

(2) コレクション展

企画展以外に美術館の収蔵作品からテーマを決めて特集展示している。

24年度は、2回の展覧会を開催した。

(3) 地域に根差した展覧会

区内在住の美術家協会会員の作品を紹介するため、毎年1回「練馬区美術家協会展」を開催している。24年度の出品点数は57点であった。

「練馬区民美術展」は区民の日頃の創作活動を発表する場として開催するもので、24年度は268点の出品があった。

「N+N（エヌプラスエヌ）展」は区内唯一の美術系大学である日本大学芸術学部と連携し、同学部の在学・卒業生を中心とした若手美術家の作品を展示している。

なお、組織改正により、教育委員会主催展は24年度から練馬区主催展となる。

(4) 展示室等の貸出し

区民などの創作発表の場として一般展示室を開放し、企画展示室についても美術館の主催事業に支障のない期間（24年度は11月の一部と12月）に貸出しをしてい

企画展

平成24年度

展覧会名	会期	内 容	観覧者数
鹿島茂コレクション2 バルビエ×ラブルール アール・デコ 色彩と線描のイラストレーション	4/8～6/3 49日間	仏文学者で古書コレクターの鹿島茂明治大学教授のコレクションシリーズの2回目。ともにフランスのナント出身で、アール・デコ期に活躍した、ジョルジュ・バルビエ（1882～1932）とジャン＝エミール・ラブルール（1877～1943）を取り上げた。バルビエは、挿絵のほか、舞台や映画の衣装デザインも手がけ、大胆な構図と躍動感、美しい色彩で独自の世界をつくりあげた。ラブルールは、様々な版画の技法を身につけ、シャープな黒線であらゆる情景をファッショナブルなタッチで捉え人気を博した。	人 10,081
生誕100年 船田玉樹—異端にして正統、孤高の画人生	7/15～9/9 49日間	船田玉樹（1912～91）は、速水御舟、小林古径に師事して謹厳な線描と端麗な色彩を駆使した日本画表現を学んだ。その後、シュールレアリスムや抽象主義を取り入れ、日本画を基礎にした前衛表現を戦中まで追求した。戦後は郷里の広島にこもり、ひたすら創作に励んだ。その作品は晩年にいたってますます豊かに華やかになっていった。	13,436
柵田康司—たちのぼる。展	9/16～ 11/25 61日間	柵田康司（1968～）は、ドイツ・ベルリンでの研修後、一貫して「子ども」を彫り続けてきた。しばしば社会の犠牲者となる「子ども」という存在に対する作者の強い思い入れがあると言える。本展では、こうした柵田の作品群を、新作や制作過程のスケッチなども含め網羅的に紹介した。	6,376
超然孤獨の風流遊戯—小林猶治郎展 富田有紀子展	2/17～4/7 43日間	「こんなに生きて、きまりがわるい」が口癖だった小林猶治郎（1897～1990）は、青年期に肺を病み医師から25歳までの命と宣告されながら、93歳で死去するまで飄々と絵を描きつづけた。伸びのある力強い筆致で描かれた初期の作品から、「油彩日本画」と称した俳味を感じさせる晩年の作までを一堂に展覧した。 富田有紀子（1958～）は、猶治郎の孫。花や果実を画題に、光あふれる世界を描き注目を集めている。	4,095

る。また、サークルの創作活動のために創作室の貸出しも行っている。

2 教育普及事業

展覧会関連講座をはじめ、各種講座やワークショップを実施している。また、「スクールプログラム」による団体鑑賞や職場体験等の受入れ、小・中学校の教員を対象に学芸員による作品解説を行うティーチャーズデイの実施、鑑賞学習教材の貸出しなど、学校との連携を深めている。

講座開設状況		平成24年度		
講座名		回数(回)	受講人数(人)	
美術館事業	展覧会 関連事業	講演会・シンポジウム	11	597
		ワークショップ・講座	14	185
		ギャラリートーク	19	1,183
		コンサート	10	813
		子ども向け鑑賞プログラム	2	19
	美術講座	4	34	
	美術館を楽しむワークショップ	8	96	
	その他	4	70	
学校事業	スクール プログラム	団体鑑賞	12	471
		施設見学	9	326
		職場体験	10	38
		出張プログラム	4	333
		職場訪問	1	1
	ティーチャーズデイ	5	45	
	その他	4	22	
合計		117	4,233	

3 資料収集事業

練馬区にゆかりのある優れた作品の収集を行うとともに、幅広い視野から近・現代の優れた美術作品を系統的に収集している。24年度は、寄贈75点があり、全所蔵数は2,483点になった。

4 美術館キャッチフレーズ、ロゴ・マークの作成

23年に練馬区立美術館の開館25周年を記念し、今後さらに美術館を充実させ「より多くの区民や美術ファンに愛される美術館へ。そのことが練馬区民の誇りとなり自慢となる美術館へ」という思いを示すため、キャッチフレーズとロゴ・マークを作成した。

「ときめきの美 いま 練馬から」というキャッチフレーズを専門家を交えた作成委員会で作成するとともに、ロゴ・マークはデザインの公募を行い最優秀作品に選ばれた和久井遥さん（日本大学芸術学部大学院在学）の作品をベースに作成した。

●生涯学習活動の支援

生涯学習とは、生涯にわたって一人ひとりが自発的な意思に基づき、自分の適した手段・方法で行う学習活動である。

区ではこれまで、平成7年に策定した「練馬区生涯学

習推進計画」、13年に策定した「練馬区生涯学習プラン21（第1期～第3期）」などを通じて、区民の多様な文化芸術活動やスポーツ活動を支援し、区民の主体的な学習要求である「知りたい・深めたい・活かしたい」という“学びの循環”による生涯学習の活性化を図ってきた。

しかし、急激な社会変化の中で、区民の学習ニーズは多様化するとともに、地域課題も複雑さを増してきている。それに伴い、生涯学習に期待される役割も、これまでの生きがいづくりや自己実現だけでなく、地域の教育力の向上やいきいきとした地域づくりに活かすことが重要なテーマとなっている。そのため、多くの区民が様々な分野で活躍し、その学習成果が地域に還元されるように、生涯学習活動への支援をさらに充実していく必要がある。

区は、23年3月に、「人が育ち 地域をつくる 学びのまち ねりま」を基本理念とした「練馬区生涯学習推進計画」（23年度～26年度）を策定し、区民の主体的な生涯学習を支援し、生涯学習施策の総合的、効果的な展開を図っている。

●学習情報の提供・相談活動の推進

区民の生涯学習活動を支援するため、毎年「学習・文化ガイドブック」および「スポーツガイドブック」を発行するとともに、平成14年2月から区ホームページに、「ねりまの生涯学習」を開設し、生涯学習の施設、事業計画・事業案内等、最新の情報を提供している。また、生涯学習の相談やアドバイスなども行っている。

●（仮称）ねりま区民大学の設置

移転を予定している総合教育センターの跡施設を活かして、区民の生涯学習に関する活動や成果が豊かな地域づくりに活かされるよう、区民の主体的な生涯学習活動を支援し、地域活動を担う人材の育成と育成した人材を活かすことを目的として「（仮称）ねりま区民大学」を設置する。

平成25年度は、「（仮称）ねりま区民大学の設置に関する基本的な考え方」や学識経験者、地域活動団体の代表者、公募区民等からなる「（仮称）ねりま区民大学のあり方懇談会」による「（仮称）ねりま区民大学のあり方について（答申）」に基づき、基本計画の策定を進める。

●生涯学習団体の育成

生涯学習団体は、芸術・文化、市民生活、社会教育、子育て、健康、福祉、レクリエーション、スポーツ等、様々な分野で自主的な学習・スポーツ活動を展開している。平成25年3月31日現在、1,795団体が、区に届出されている。

区では、これらの団体の求めに応じて指導・助言をするほか、団体の学習・スポーツ活動をより広く情報提供するため、届出名簿一覧表を閲覧できるようにしている。

●区民参加と交流の促進

子育て・子どもの教育をテーマとした講座（子育て学習講座）や、子どもたちがいろいろな遊びや体験・学習等を行う講座（ねりま遊遊スクール）の企画運営をPTA・生涯学習団体・NPO等に委託し実施することにより、区民参加と地域の教育力向上を図るとともに、地域における子どもたちの居場所の一つとしている。

●学習の機会の充実

1 子育て学習講座

地域や家庭における子育てや子どもの教育は、人格形成の上で、大変重要である。PTA等の地域で活動している団体に、子育てや子どもの教育に関する様々な課題等を学習する場として企画・運営を委託し実施している。平成24年度は、49講座実施し、延べ1,500人が参加した。

2 父親育ち講座（ねりマイクメン講座）

父親が子育てや家事に積極的に関わることができるよう、育児や家事について学ぶ機会を提供するとともに、子どもと父親・父親同士の交流を図ることを目的として、23年度から、地域で活動している団体に企画・運営を委託し実施している。24年度は、17講座実施し、延べ429人が参加した。

3 ねりま遊遊スクール（子どもの居場所づくり）

放課後や休日などに、学校や公共施設等を会場に、子どもたちがいろいろな遊びや体験活動・学習の機会を得るための場として、地域で活動している団体に企画・運営を委託している。24年度は、452講座実施し、延べ14,951人が参加した。

4 ねりま遊遊スクール（子どもによる講座づくり）

中学生が自ら講座の企画運営にかかわることで、その自主性を育むとともに、地域における小学生と中学生の交流を図るために、14年度から中学校の部活動等の団体に委託し、実施している。24年度は、27講座実施し、延べ476人が参加した。

5 子供安全学習講座

子どもが安全に、かつ安心して生活するために、子ども自身が犯罪や災害などの危険から身を守る方法を学んだり、大人が子どもの安全に関する知識を習得する講座である。

地域で活動している団体に企画・運営を委託している。24年度は、9講座実施し、延べ239人が参加した。

6 珠算コンクール

珠算の技術向上と発展を図るため、小・中学生を対象に、練馬区珠算教育連盟との共催で、年1回珠算コンクールを開催している。24年度は、190人が参加した。

7 人権学習

現代社会の様々な人権問題に関する学習を、生涯各期にわたり推進するため、人権講座を開催している。24年度は、8回実施し、延べ236人が参加した。

8 武蔵大学特別聴講生

武蔵大学に4月から翌年3月までの1年間、一般の学生と一緒に授業を聴講する特別聴講生を派遣している。

修了後、ボランティア活動を行う意思があることを条件に、聴講料の一部を区と武蔵大学で負担している。24年度は、31人の聴講生を派遣した。

●区民発出前講座

様々な趣味や特技を持つ区民・団体に、講座の企画内容を登録してもらい、地域の団体・サークルに講師として紹介している。平成13年6月に講座登録を開始し、25年3月31日現在で、88講座が登録されている。

●情報教育推進事業

情報機器や情報通信ネットワークが普及していく中で、情報を収集し正しく判断する能力や、自ら情報を発信していく能力の育成およびインターネットなどを悪用した犯罪等に対処できる情報能力を育成する。

1 中学生のためのニュース番組制作講座

中学生が実際にニュース番組の制作を体験することで、情報を発信するプロセスや仕組みを学んでいき、能動的に情報リテラシーを理解する能力を育成する。平成22年度から、日本大学芸術学部運営を委託し実施している。24年度は、15人が参加した。

2 親子NIE講座

情報を読み取り、整理し発信する能力を育成するため、新聞活用学習（NIE）を22年度から実施している。24年度は、親子対象延べ63人が参加した。

●学校施設の地域開放推進

学校教育に支障のない範囲で、学校が地域の核として健全で豊かなコミュニティづくりの場となることを目指して、地域住民の学習・文化・レクリエーション・スポーツ活動の場として、学校施設を開放している。また、児童の健全育成を目的に区立小学校の校庭を遊び場・スポーツの場として開放している。施設開放は、当該校と地域の住民による学校応援団や学校開放運営委員会に学校開放事業の運営を委託しているほか、学校への事前申請に基づき、区民の一般利用に開放している。

1 校庭開放

平成25年3月31日現在、区立全小学校（65校）の校庭を、地域の子どもの健全な遊び場、スポーツの場として開放している。24年度は、1校当たり1日平均53.1人、年間では全校で延べ1,074,705人の利用があった。内訳は、62.8%が個人利用、37.2%が少年スポーツ団体などの利用であった。

2 学校図書館開放

子どもを主とした地域住民に対して、区立小学校図書館（室）を開放し、図書の貸出しと読書・学習の場を提供している。

25年3月31日現在、42校を開放し、蔵書数は289,807冊である。また、24年度は延べ212,926人の利用があり、

64,605冊を貸し出した。

また、13年度から、区立図書館から離れた場所にある学校開放図書館に、区立図書館資料の検索ができる端末を設置し、24年度末時点では、5校で予約・貸出しを実施している。24年度は3,266冊の貸出しがあった。

3 教室開放

区立小学校の余裕教室を活用して整備した開放用施設を、地域住民の身近な学習・文化・レクリエーション活動の場として開放している。

25年3月31日現在、19校で46施設を開放している。24年度は3,221件、延べ61,564人の利用があった。

4 学校体育施設の開放

区民がスポーツ活動を身近に行える場として、区立学校体育施設（体育館・プール）の開放を行っている。これは区民の体力増進や、健康管理のために場を提供するだけでなく、スポーツを通じて、学校が地域の核として健全で豊かなコミュニティづくりの場となることを目指すものである。

24年度の学校体育館開放は、37校の小中学校で実施し、延べ232,282人が利用した。また、プール開放は8校の小学校（ただし夏休み期間中のみ）で、延べ5,339人が利用した。

5 学校施設の一般利用

学校応援団や学校開放運営委員会による施設開放のほか、区立の全小・中学校の学校施設を、学校教育に支障のない範囲で、学校への事前申請に基づき、区民の一般利用に提供している。

提供する施設は、校庭、屋内運動場、教室などのほか、中学校18校に設置済みの第二屋内運動場（格技室）や開進第二中学校と大泉中学校に設置しているセミナーハウスがある。

●総合教育センターの生涯学習事業

昭和55年に開設された総合教育センターでは、区の生涯学習活動の拠点の一つとして、つぎのような事業を行っている。

1 催物

平成24年度に実施した催物は、下表のとおりである。区民囲碁大会・将棋大会は、それぞれ年1回の開催であり、初心者から有段者まで老若男女を問わず楽しく腕を競っている。

総合教育センターの催物		平成24年度
事業名	参加者	
	人	
子ども映画会 6回	延べ96	
区民囲碁大会 1回	112	
区民将棋大会 1回	98	

注：子ども映画会は平成25年2月で終了した。

2 ジュニア・オーケストラ

小学4年生から18歳までの少年少女を団員として、年40回程度練習を行い、学校演奏会と定期演奏会をそれぞれ年1回開催している（平成25年度は定期演奏会のみ）。25年4月現在の団員は58人である。

3 弦楽体験教室

小学4年生から中学生で弦楽器の初心者を対象に、6月から8月にかけて、全9回で1コースの体験教室を開催した。24年度は19人が参加した。

4 16ミリフィルム等の貸出し

25年3月31日現在、学校教育や社会教育、昔話などのアニメーション等1,571巻を所蔵している。24年度は、幼稚園、保育園を中心に47件で231点の貸出しがあった。

●少年自然の家

少年自然の家は、恵まれた自然環境の中での集団宿泊生活を通じ、少年たちの創意と活力あふれる人間形成を図るとともに、区民の健全な余暇活動に役立てるため設置されている。

少年自然の家にはベルデ（スペイン語で「みどり」という意味）という愛称が付いており、浅間山の麓にベルデ軽井沢、伊豆下田にベルデ下田、美ヶ原高原の麓にベルデ武石、内房岩井海岸にベルデ岩井がある。

小・中学校の移動教室、中学校の臨海・林間学校に利用されているほか、夏・冬休みを中心に区内の少年団体や区民にも広く利用されている。

少年自然の家の利用状況		平成24年度
施設名	利用者数	
	延べ 人	
軽井沢少年自然の家（ベルデ軽井沢）	34,924	
下田少年自然の家（ベルデ下田）	14,402	
武石少年自然の家（ベルデ武石）	27,849	
岩井少年自然の家（ベルデ岩井）	16,804	
計	93,979	

注：小・中学校の校外授業、少年団体や区民の総利用者数である。

●生涯学習センター

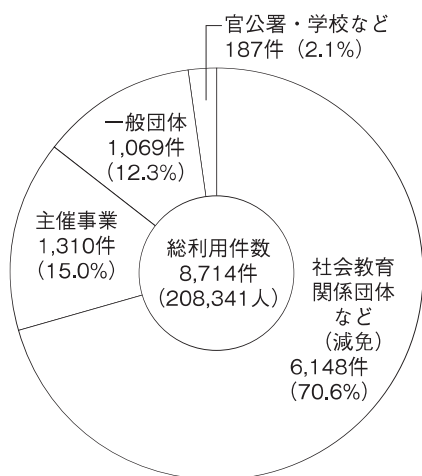
昭和28年に練馬公民館として開館以来、区の生涯学習の中心的施設として区民に親しまれてきたが、平成24年4月から区民生活事業本部地域文化部文化・生涯学習課に所管が移行し、名称を「生涯学習センター」と変更した。

現在は、生涯学習の中核を担う施設として、練馬公民館で行っていた事業を継続しつつ、学習や文化芸術活動を支援している。また、他施設、他施策との連携による幅広い事業展開や文化芸術・生涯学習の総合的な情報の収集・提供機能の充実を図り、人づくり・地域づくりを総合的に推進している。

生涯学習センターの事業実施状況 平成24年度

事業名	実施状況
区民大学	13講座、延べ3,119人受講
寿大学	65歳以上対象 2回、延べ4,212人受講
寿大学通信講座	60歳以上対象 書道・俳句の2科目、 延べ6,456人受講
寿大学通信講座 スクーリング	講師による直接指導 5回、延べ154人受講
寿大学通信講座 書き初め展	1回、384人出品（俳句を含む。）
児童合唱団	毎週土曜日練習 演奏会4回
視聴覚事業	名画鑑賞会、こどもえいがかい 49回、延べ7,276人入場
サークル文化祭	1回、延べ8,846人入場
区民文化祭	1回、延べ14,527人参加
芸術鑑賞会	5回、延べ1,170人入場
公開講座	6講座（大学4校、高校1校） 延べ872人受講
国際理解推進講座	1講座、延べ184人受講
サポーターズ講座	料理講座16講座、一般講座7講座、 延べ1,617人受講

生涯学習センターの利用状況 平成24年度



●石神井公園ふるさと文化館

区の伝統文化を生かし、新たな地域文化を創造するため、観光振興にも寄与する博物館機能を有する生涯学習施設として、区立石神井プール敷地（石神井町5-12-16）に平成22年3月28日に開館した。

また、隣接の区立池淵史跡公園内に茅葺屋根の民家「旧内田家住宅」（区指定文化財）を移築復元し、建物内部も公開している。

館の展示案内や各種交流事業に区民サポーター120名が携わり、区民と館を結ぶ役割を担う存在として活動している。

24年度は延べ206,435人が来館した。

1 展示事業

(1) 常設展

「江戸・東京の近郊の暮らし」をテーマに、練馬区の歴史・民俗・伝統文化の特色を伝える展示を行っている。縄文時代の土器などの出土品、練馬大根の関連資料、アニメーション資料などがあり、様々な資料を体験しながら楽しく学ぶことができるような展示構成としている。

(2) 特別展

区の歴史などのほか幅広い視野からテーマを設定した特別展を24年度は2回開催した。（有料展）

展覧会名	会期	内容	観覧者数
特別展「鉄道の開通と小さな旅—西武・東上沿線の観光—」展	9/22～11/11 44日間	武蔵野鉄道（現西武池袋線）創立100年を記念して、練馬区域を通る西武池袋線・新宿線、東武東上線沿線の区内・外の観光地や観光列車などに関する資料を展示した。	人 4,361
特別展「鉄腕アトム放送50周年記念アトムが飛んだ日」展	1/19～3/24 56日間	国産初の30分テレビアニメシリーズ「鉄腕アトム」が、練馬区で生まれてから50年に当たるのを記念して、「鉄腕アトム」の原作マンガやセル画などの関連資料を展示した。	人 5,505

講演会名等	参加人数
講演会「私鉄経営と沿線行楽地—武蔵野鉄道を中心に—」	人 83
講演会「アトムがアニメになった日」	96
講演会「虫プロから始まったアニメ人生」	100

(3) 企画展

収蔵資料からテーマを決めた企画展を24年度は2回開催した。（無料展）

展覧会名	会期	内容	観覧者数
収蔵品企画展「刀装具—中山コレクション」	4/28～6/3 32日間	区内在住の中山彬氏から寄贈された江戸時代の鐔（つば）をはじめとする刀装具のコレクション約120点を紹介。	人 3,320
収蔵品企画展「絵図・地図の世界」	7/7～8/12 32日間	江戸時代の練馬の村々や明治期以降の練馬区域をはじめとする様々な絵図・地図を展示した。	人 1,492

(4) ギャラリー企画展

写真などテーマ別のギャラリー展示を24年度は5回開催した。

ギャラリー企画展		平成24年度
展覧会名	会期	内容
ギャラリー企画展「生誕150年 植物学者・牧野富太郎」パネル展	5/11～6/10 27日間	牧野富太郎の生誕150年を記念し、富太郎の人となりや事績を紹介した。
ギャラリー企画展「ホテル―生命の輝き―」写真展	6/13～7/31 42日間	練馬区内でも生息していたホテルの生態を、ゲンジボタルを中心とした約30枚の写真パネルで紹介した。
ギャラリー企画展「昔写真展―駅―」	8/23～8/31 8日間	練馬区内の駅の昔写真（昭和20～40年代中心）のパネル約20枚を展示した。
ギャラリー企画展「来て見て発見！はじめよう古民家めぐり―古民家の魅力伝えます―」パネル展	11/13～11/25 12日間	都内9区に現存する古民家の写真パネル約20枚を展示した。
ギャラリー企画展「昔写真展―屋敷林と農の四季―」	2/2～3/3 26日間	昭和20～30年代を中心に練馬区内の屋敷林、雑木林や畑の広がる風景、農家の生活にかかわる写真約20枚を展示した。

(5) わがまち練馬情報コーナー1・2

隣接する都立石神井公園をはじめとした区内の自然・名所や、伝統工芸、ねりコレなどの産業情報、区民の創作作品を展示、紹介している。

2 教育普及事業

区の歴史・民俗・伝統文化等に関する講座、旧内田家住宅を活用した季節体験事業、親子でのふれあいを楽しめる催しなどを実施している。また、幼稚園、保育園、学校の団体見学や職場体験等の受入れ、学校への講師派遣や大学の実習生受入れ等も行っている。

講座等開設状況		平成24年度	
事業名等	回数	参加人数	
ふるさと文化講座	8回	579人	
季節体験事業（端午の節句、七夕、十五夜等）	6回		
ふれあい土曜事業	51回	1,668人	
その他主催事業（夏休みイベント、ふるさと探訪等）		2,894人	
学校等団体見学	小・中学校	83校	6,538人
	幼稚園・保育園	13園	397人
職場体験	7件	28人	
講師派遣	2件	（対象）209人	
実習生受入れ	2件	6人	

3 資料収集事業

区の伝統文化にかかわる資料を幅広く系統的に収集している。24年度は新規受入れ資料が135点あり、全所蔵数は資料・図書を合わせて31,577点になった。

4 施設貸出し

区民の文化活動の練習・発表の場として、多目的会議室、企画展示室、ギャラリー、展示用ボックス等の貸出しを行っている。

施設利用状況		平成24年度
施設	貸出数（延べ）	
多目的会議室	184件	
会議室（1・2）	215件	
企画展示室	72日	
ギャラリー	155日	
展示用ボックス	204月	

5 石神井公園ふるさと文化館運営懇談会

館の運営や事業内容等について区民および識者等の意見を反映させるために「練馬区立石神井公園ふるさと文化館運営懇談会」を設置している。24年度は2回開催した。

(2) 読書活動を支援する

●図書館

区立図書館は、地域の情報拠点として、生涯学習や暮らしに役立つ図書館資料の貸出しをはじめ、おはなし会やよみきかせなどの各種サービスを展開している。資料の収集・提供を充実するとともに、ビジネス、子育て、住民活動など、人々の生活や仕事の上で必要な資料や情報を提供するなどの支援を行っている。

また、これまでの貸出しやリクエストサービスに加えて、利用者が求めている資料を的確に探し出し、調査や学習を手助けするためのレファレンスサービスを重要なサービスとして位置づけ、その充実を図っている。

さらに区は、急速に進む情報化社会の中で、図書館が求められる多様なニーズや直面する課題を検討し、「練馬区立図書館ビジョン ～これからの図書館サービスのあり方～」を平成25年6月に策定した。これにより、図書館運営の基本理念を「情報拠点として 区民に役立ち 頼りにされ 愛される図書館」とし、情報発信拠点機能の充実、学校および子育て家庭などへの支援、図書館の資料や人材の活用、区民や地域との協働を、これからの図書館サービスの方向性として定め、サービスの充実を図っていく。

1 施設の充実

図書館利用者の利便性の向上を図るため、予約した図書館資料の受取および返却ができる図書館資料受取窓口の2か所目として、豊玉受取窓口（豊玉上2、豊玉リサイクルセンター内）を23年10月に開設した。

また、小学校低学年までの乳幼児・児童とその保護者を対象とする、南大泉図書館分室こどもと本のひろばを25年4月に開設した。

そのほか、区立小学校の開放図書館5校に区立図書館の資料を検索できるパソコンを設置している。

2 図書等資料の充実

東京都公立図書館調査（23年度実績）によれば、個人貸出点数は23区中第1位、予約点数も第1位となっている。とりわけ図書館ホームページによる予約サービスを利用した予約が増加している。

練馬区はこのように図書館の利用が多い一方、人口一人当たりで見ると所蔵資料数は23区中21位と低位に位置している。この状況を改善するため、所蔵資料数を増やし、同時に書架等の整備による収蔵力の充実に図っていく。

3 開館日・開館時間の拡大

開館日の拡大については、18年4月から祝日の振替休日、5月4日、12月28日の開館を実施した。20年4月からは、休館日である月曜を各館ごとに月に1回開館することとした。

開館時間については、窓口等業務委託を導入した館から、順次開館時間の延長を実施し、20年4月からはすべての館で平日は午後8時、土・日・祝休日は午後7時まで開館している。

さらに24年4月からは、駅に近く夜間の利用が見込める貫井図書館と春日町図書館について、平日・土・日・祝休日とも午後9時まで開館することとした。

4 子どもの読書活動の推進

図書館では、21年3月に「練馬区子ども読書活動推進計画（第二次）」を策定し、練馬区の子どもたちが読書の楽しさや素晴らしさを知り、たくさんの本と出会えるように、区を挙げて様々な取組を進めている。

こうした取組を通して、読書意欲を喚起し、読書環境を整備することで、子どもの読書活動が充実するように支援を行っている。

図書館では、絵本や紙芝居、図鑑や読み物などを豊富に所蔵した児童コーナーを設置しており、児童向けのおはなし会、おたのしみ会などの多彩な催しを行っている。中高校生向けとしては、青少年コーナーを全館に設置し、読書活動の推進と居場所の提供に取り組んでいる。

また、親子のふれあいと、本への親しみを深める活動として、（保健相談所で行う4か月児健診時に案内し）図書館で保護者に絵本等を手渡すブックスタート事業への取組（24年度4,368セットを配布）や、児童に無償で図書の貸出し等を行っている地域文庫等への本の助成（18団体920冊）、会場に用意した様々な本の中からクイズの答えを見つけ出す参加型イベント「本の探検ラリー」事業を実施している。

子どもたちの読書活動を推進していくため、学校へ

の団体貸出しや調べ学習用資料の貸出し、ブックトーク、学校等の教職員を対象とした読書活動の講習会などの支援を実施している。大泉図書館、貫井図書館、稲荷山図書館、南大泉図書館、春日町図書館および南田中図書館では、学校支援モデル事業を実施している。この事業では、52校の学校図書館に学校図書館支援員を配置し、各校の学校図書館運営計画に基づき、調べ学習の支援や学校図書館資料の選定に対する助言・整理の一層の充実などを行っている。また、ブックスタート事業や本の探検ラリーでのボランティア団体との協働や、地域の学校や施設でよみきかせを行うボランティアへの研修会を実施し、活動の担い手を育成している。

5 障害のある方へのサービス

区立図書館は、だれもが利用できる施設として、身体に障害のある方をはじめ図書館の利用が困難な方へのサービスの向上や施設の整備を進めている。

図書館では、ボランティアの協力を得て墨字図書（文字で書かれた本）を点訳・音訳して点字資料や録音資料を製作し（24年度32点製作）、音訳ボランティアの養成講習会も開催している。また乳幼児や知的障害児向けに布の絵本を製作し（所蔵数1,090点、24年度44点製作）、それらの製作の講習会も開催している。視覚障害者に対しては、ボランティアが本や雑誌などを音読する対面朗読サービスを行い、延べ1,044時間が利用されている。

点字資料・録音資料は、全国の図書館などと連携して相互貸借を行い利用者に郵送貸出しサービスを行っている。18年1月からは、外出が困難な障害者等（区民）を対象に図書館資料の郵送サービスを行っている。

6 情報化への対応

現在、区立図書館は、全12館および受取窓口等をネットワークで結び、資料の提供サービスを行っている。

情報機器を使用したサービスとして、図書館ホームページによる資料の検索・予約や貸出し・予約情報の確認サービス、館内に設置した自動検索機による資料の検索・予約サービス、図書館情報ボックス（電話による自動音声応答システム）による貸出・予約情報の確認サービス、インターネット接続パソコンの設置、Eメールによる予約資料の取り置き通知サービスを行っている。

18年2月からはEメール、電話による予約資料の確保連絡と返却期限の自動通知を開始し、19年3月からは子ども読書活動推進の一環として、子ども向けホームページを開設し、20年1月からは携帯電話のインターネット利用機能による資料検索・予約ができるホームページを開設している。25年1月にはシステム更新を行い、青少年向けページ、区立小中学校向け学習支援ページの開設や資料予約機能の改善を行った。

また、貸出手続の待ち時間短縮を図るための自動貸

出機と、資料の紛失を防止し、資料の適正な管理を図るための貸出手続確認装置を全館に設置している。

図書館の所蔵資料

平成25年3月31日現在

種別	館名	光が丘	練馬	石神井	平和台	大泉	関町	貫井	稲荷山	小竹	南大泉	春日町	南田中	合計
一般書(冊)		211,820	104,572	160,528	91,080	143,173	78,155	89,233	56,253	54,399	42,314	71,690	60,588	1,163,805
青少年向け(冊)		17,302	1,879	6,085	3,026	8,784	3,750	4,684	4,036	3,679	8,648	10,233	5,318	77,424
児童書(冊)		83,003	36,398	43,055	37,979	55,349	35,687	43,594	23,012	24,366	18,986	24,715	31,447	457,591
その他図書(冊)		392	64	67	63	169	250	96	18	91	23	26	20	1,279
点字図書・拡大写本(冊)		1,217	1,172	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,389
視覚障害者用録音図書(組)		3,579	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,579
雑誌(冊)		14,053	5,108	4,197	4,733	3,726	4,085	5,006	3,488	2,567	1,930	2,872	2,568	54,333
点字雑誌(組)		590	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	590
視覚障害者用録音雑誌(組)		1,357	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,357
C D(組)		17,529	10,648	6,772	6,572	7,515	6,033	8,434	4,795	7,379	4,784	9,268	4,987	94,716
カセットテープ(組)		215	221	243	616	238	65	488	114	171	—	73	—	2,444
レコード(組)		370	21	114	811	47	282	25	—	—	—	—	—	1,670
公共ビデオ(組)		193	99	125	113	95	194	157	98	156	—	95	60	1,385
一般ビデオ(組)		1,192	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,192
その他視聴覚資料(組)		72	15	15	15	15	15	15	15	14	15	13	8	227
視覚障害者用CD(組)		154	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	154
昆虫標本(点)		—	—	—	—	—	—	—	3,261	—	—	—	—	3,261
マイクロフィルム(点)		1,772	—	—	1,368	—	—	—	—	—	—	—	—	3,140

図書館の利用状況等

平成24年度

種別	館名	光が丘	練馬	石神井	平和台	大泉	関町	貫井	稲荷山	小竹	南大泉	春日町	南田中	各館合計	高野台窓口	豊玉窓口	合計
個人利用登録者数(人)		42,738	29,916	25,900	17,023	21,469	15,091	22,046	7,483	12,318	12,439	12,583	5,513	224,519	—	—	224,519
団体利用登録数(団体)		239	137	88	168	128	155	60	71	93	68	75	70	1,352	—	—	1,352
貸出数	個人貸出点数(点)	1,141,664	630,948	604,476	466,135	625,126	466,036	544,458	209,481	367,355	342,489	473,915	377,065	6,249,148	33,005	19,679	6,301,832
	一般図書(冊)	962,044	535,043	521,192	397,505	539,381	389,419	456,315	175,501	296,637	295,434	397,902	319,577	5,285,950	27,776	15,261	5,328,987
	点字図書・録音図書(組)	2,620	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	2,622	—	—	2,622
	雑誌(冊)	55,053	23,606	20,463	23,162	23,890	21,735	25,916	15,998	14,852	15,499	20,183	16,016	276,373	1,366	823	278,562
	点字雑誌・録音雑誌(組)	6,297	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6,297	—	—	6,297
	CD、カセットテープ、レコード(組)	113,235	72,192	62,690	45,406	61,693	54,796	62,099	17,908	55,781	31,524	55,746	41,357	674,427	3,856	3,590	681,873
	公共・一般ビデオ、その他(組)	2,373	107	131	61	162	86	128	73	85	32	84	115	3,437	7	5	3,449
視覚障害者用CD、カセットテープ(組)	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	—	—	42	
個人貸出者数(人)		428,163	243,140	230,232	168,357	222,307	165,150	223,978	70,758	137,800	126,990	188,409	143,090	2,348,374	16,394	10,408	2,375,176
団体貸出点数(点)		21,799	9,339	10,522	14,926	10,484	10,825	7,473	9,065	11,345	2,740	6,454	8,966	123,938	—	—	123,938
協力貸出点数(点)		6,121	917	1,045	714	880	523	862	535	413	239	708	482	13,439	—	—	13,439
貸出予約数	個人貸出予約数(点)	280,631	205,097	182,158	142,818	167,280	153,917	188,782	53,277	128,097	134,938	131,598	84,418	1,853,011	34,127	20,475	1,907,613
	図書等(冊)	239,999	172,641	153,752	120,931	139,123	123,904	158,283	44,701	100,154	112,053	111,423	72,210	1,549,174	30,149	17,231	1,596,554
	雑誌等(冊)	11,137	7,133	6,514	5,812	6,700	5,618	7,906	2,684	5,019	6,087	6,225	2,995	73,830	1,022	594	75,446
	CD、ビデオ等(点)	29,495	25,323	21,892	16,075	21,457	24,395	22,593	5,892	22,924	16,798	13,950	9,213	230,007	2,956	2,650	235,613
団体貸出予約数(点)		4,205	3,680	3,829	2,637	4,462	3,580	2,903	1,784	3,241	1,767	2,727	2,579	37,394	—	—	37,394
協力貸出予約数(点)		3,603	935	1,068	733	883	522	866	545	430	232	697	476	10,990	—	—	10,990
対面朗読数(回)		56	156	—	16	82	—	370	—	—	—	364	—	1,044	—	—	1,044
会議室、読書会室利用数(回)		230	138	0	7	110	—	—	8	0	—	317	53	863	—	—	863
視聴覚室利用数(回)		163	—	—	98	52	125	288	—	—	—	3	—	729	—	—	729
ギャラリー利用数(日)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	73	—	73	—	—	73
図書館開館日数(日)		312	312	312	312	312	312	312	312	312	312	312	312	3,744	—	—	3,744

※光が丘には外出困難障害者図書館資料郵送サービス分を含む。

催し物		平成24年度
催し物名	実施回数等	参加者数
よみきかせ・おはなし会	722回	13,575人
おたのしみ会	25回	1,561人
人形劇	4回	323人
児童映画会	30回	1,401人
昆虫教室(稲荷山図書館)	3回	78人
本の探検ラリー(図書館)	2館	176人
本の探検ラリー(小中学校)	40校	4,134人
手づくり講習会	1回	34人
学校、施設教職員講習会	2回	28人
よみきかせ講習会	3回	80人
工作会	5回	108人
講演会	7回	312人
布の絵本講習会	延べ8回	延べ112人
音訳者等養成講習会	延べ12回	延べ212人

スポーツ事業		平成24年度
区 分	内容および参加人数	
各 種 大 会	区民体育大会	34種目 総合開会式 22,396人 648人
	都民体育大会	32種目 607人
	都民生涯スポーツ大会	15種目 185人
	城北地区競技会	6種目 307人
	少年野球大会	65チーム 1,013人
	女性スポーツ大会	3種目 1,407人
	都民スポレクふれあい大会	3種目 59人
野 外 活 動	区民歩行会	7月7・8日実施 美ヶ原・碓氷峠 132人 10月27・28日実施 麻綿原・館山 170人
	わんぱくキャンプ	7月27日～29日実施 武石栗栗キャンプ場 69人
ス ポ ー ツ 教 室	30種目 73教室	6,041人
夏 休 み 水 泳 教 室	3校	158人
少 年 少 女 ス ポ ー ツ ふ れ あ い ひ ろ ば	2月16日実施	291人
体 育 の 日 記 念 行 事	10月8日実施 7会場	総合体育館ほか 19,427人
ね り ま 光 が 丘 ロ ー ド レ ー ス	11月11日実施	2,500人

(3) スポーツ活動を支援する

●スポーツの機会の充実

区は、区民の誰もが、それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、身近な地域で「いつでもどこでも いつまでも」スポーツに親しめる豊かであるおのがある生涯スポーツ社会の実現と、スポーツが盛んな、活気あふれるまち“ねりま”をめざし、平成21年3月に「練馬区スポーツ振興基本計画」(21年度～25年度)を策定した。

区民が生涯にわたって、いきいきとスポーツ活動を続けるためには、活動の場の整備と活動の機会の提供が必要なことは言うまでもない。そのため、区では、初心者のためのスポーツ教室や、各種の競技会、野外活動など多くの事業を区民に提供している。

今後も、より身近な地域で、多くの区民がスポーツに親しむ機会を、充実していく必要がある。

また、計画期間(21年度から25年度)の中間年度である23年度に、これまでの取組状況と成果などに基づいた中間評価を実施し、スポーツに関する情報提供の充実など今後重点的に推進する取組を設定した。

●地域スポーツ指導者の育成

区には、平成25年3月31日現在1,295の生涯学習スポーツ団体が届出をして活動している。一方では、スポーツをやりたくてもその方法が分からない区民も数多くいる。

区では、区民の多様なスポーツへの要望に応じられるよう、また、生涯スポーツの日常化を目指すスポーツクラブの育成のために、資質の高い指導者の育成と確保に努めている。

1 スポーツ推進委員

区民の要望に応じて、地域スポーツの振興を図るため、スポーツに関する指導、助言を行うことを主目的に、38人(25年3月31日現在)のスポーツ推進委員を委嘱している。

主な日常活動として、地域に向けて、様々なスポーツイベントを企画・実施し、スポーツ振興を図っている。さらに、区民に開放している小・中学校体育館の管理運営やスポーツサークル等の育成・指導等も行っている。このほか区民歩行会、わんぱくキャンプ、夏休み水泳教室等の指導員としても活躍している。

2 スポーツリーダー養成講習会

スポーツ指導者は、専門知識や経験に基づく高い指導能力が求められる。

区民の様々な要望に応えられる指導者の育成・確保を図るため、区では、スポーツリーダー養成講習会を開き、修了者に対して認定を行っている。

種目別生涯学習スポーツ団体届出数 平成25年3月31日現在

種 目		団体数
球 技	バレーボール	153
	バドミントン	96
	卓球	98
	バスケットボール	86
	キャッチバレーボール	50
	野球	60
	ソフトボール	62
	サッカー	113
	テニス	44
	その他	7
水泳	水泳	92
	その他	7
体操	体操	72
	エアロビクス	24
	その他	58
武道	剣道	43
	空手	25
	合気道	16
	その他	23
ダンス	社交ダンス	35
	フォークダンス	13
	その他	54
その他	野外活動	27
	ニュースポーツ	24
	その他	13
合 計		1,295

種目別スポーツリーダー数 平成25年3月31日現在

種 目	計
バレーボール	17
バドミントン	52
卓球	57
水泳	128
陸上	3
サッカー	2
テニス	1
ソフトボール	6
野外活動	1
ダンス	6
軽スポーツ	6
バウンドテニス	2
体操	61
健康トレーニング	2
クラブコーディネーター	80
ペタメンク	15
ソフトバレーボール	28
グラウンド・ゴルフ	15
インデイヤカ	28
ラケットテニス	8
ターゲット・バードゴルフ	7
カヌー	2
スポーツチャンバラ	4
ウォーキング	50
ユニバーサルホッケー	4
フットサル	26
テニスボール	5
チュックボール	11
水中運動	39
エコロジースポーツ	2
ビーチボールバレー	20
ヘルシーダンス	18
合 計	706

注：複数種目登録者を含む。

●総合型地域スポーツクラブの育成

国の「スポーツ基本計画」(平成24年3月告示)では、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出するための取組の一つとして「総合型地域スポーツクラブ(区の略称SSC)」の育成を重点施策としている。

総合型地域スポーツクラブ(SSC)は、

- ・地域の人々が自主的に会費で運営する。
- ・クラブの活動拠点となる施設を持っている。
- ・複数種目の活動が楽しめる。
- ・子どもから高齢者まで幅広い年齢層が交流できる。
- ・クラブが主催するスポーツ事業が地域に提供される。

などを特徴とした、今までになかった欧州型の地域スポーツクラブづくりを目指している。

区では、12年度から3か年にわたり、文部科学省のモ

デル市町村の指定を受け、総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、積極的に育成・支援を行っている。

現在、7か所の区立体育館を活動拠点とし、会員制による自立的な運営を行っている。

総合型地域スポーツクラブ (SSC) 平成25年3月31日現在

クラブ名 (通称名)	設立年月日	主催・共催 事業参加者数 人
NPO法人 SSC谷原アルファ (SSC谷原)	平成14年 8月24日	23,023
NPO法人 スポーツコミュニティ桜 (SSC桜台)	平成14年 9月 5日	8,817
NPO法人 スポーツクラブホワイエ 上石神井 (SSC上石神井)	平成14年12月17日	11,091
NPO法人 総合型地域スポーツ クラブ平和台 (SSC平和台)	平成14年10月 4日	21,518
NPO法人 光が丘総合型地域 スポーツ・レクリエーションクラブ (SSC光が丘)	平成14年 9月10日	9,155
NPO法人 コミュニティネットSSC 大泉 (SSC大泉)	平成14年 8月13日	146,840
NPO法人 豊玉・中村地域スポーツクラブ クラブ ブラッツ (SSC豊玉・中村)	平成21年 2月21日	22,000

●スポーツ施設の整備

区民のスポーツ活動参加を促進するためには、まずスポーツ施設の整備を図り、活動の場を確保することが必要である。

平成25年3月31日現在、区のスポーツ施設は、体育館7館、プール7か所、成人野球場6面、少年野球場5面、庭球場23面、多目的運動場2面、陸上競技場1面、ゲートボール場2面、多目的広場3か所、スポーツ広場1か所である。

しかし、施設は区の人口に比較し十分とはいえない状況であり、今後もスポーツ施設の整備・充実を図る必要がある。

屋外施設種目別利用状況 平成24年度

区分	施設名	件数
成人野球	学 田 公 園 面	1 610
	高 野 台	1 379
	北 大 泉	2 779
	東 台	2 958
少年野球	練馬総合運動場	2 1,271
	大泉学園少年野球場	1 -
	日本銀行石神井運動場	1 78
	荒川河川敷野球場 (硬式少年野球)	2 212
	大泉学園町希望が丘公園運動場	1 40
庭	豊 玉 中 公 園	3 2,530
	高 野 台	4 2,941
	び くに 公 園	2 1,406
	土 支 田	7 7,580
球	夏 の 雲 公 園	4 6,365
	日本銀行石神井運動場	7 3,337
	大泉学園町希望が丘公園運動場	3 3,318
	陸上競技等	練馬総合運動場
ゲートボール	練馬総合運動場	2 833
個人利用	大泉さくら運動公園多目的運動場	36
	練馬総合運動場	8,354
ラグビー	大泉さくら運動公園多目的運動場	16
サッカー	大泉さくら運動公園多目的運動場	974
	日本銀行石神井運動場 (少年サッカー)	107
	大泉学園町希望が丘公園運動場	277
ニュースポーツ	大泉さくら運動公園多目的運動場	99
	日本銀行石神井運動場	87
	大泉学園町希望が丘公園運動場	2
	びくに公園多目的広場	253
	夏の雲公園多目的広場	-
	総合体育館東側多目的広場	50
	やまなみ公園多目的運動広場	-

注：日本銀行石神井運動場は、平成24年10月から公園整備工事のため休場。26年4月から石神井松の風文化公園 (多目的広場・庭球場) として開園予定。
件数について、練馬総合運動場は時間で集計している。

体育館の利用状況

平成24年度

区分	施設名	施設名						
		総合体育館	桜台体育館	平和台体育館	光が丘体育館	上石神井体育館	大泉学園町体育館	中村南スポーツ交流センター
個人利用		41,227	8,551	43,507	39,407	41,803	51,845	34,216
団体利用		51,212	30,321	19,825	24,381	27,541	19,545	16,237
トレーニング		16,681	—	21,088	53,523	26,713	29,941	54,699
連盟主催大会等		34,657	1,181	14,551	14,954	5,290	18,485	18,248
教室・大会等		20,204	4,628	2,650	18,111	3,353	4,326	1,737
健康体力相談		—	—	—	260	—	—	—
自主事業		—	81	297	51	0	427	18,181
合計		163,981	44,762	101,918	150,687	104,700	124,569	143,318

注：トレーニング室には説明会参加者を含む。なお、光が丘体育館の個人利用には屋内ランニングコース利用者を含む。

プールの利用状況

平成24年度

区分	施設名	施設名						
		石神井プール	三原台温水プール	平和台体育館温水プール	光が丘体育館温水プール	上石神井体育館温水プール	大泉学園町体育館温水プール	中村南スポーツ交流センター
個人利用	幼児	8,146	3,620	3,443	6,016	2,063	2,366	9,178
	小・中学生	16,360	13,982	12,175	23,255	6,804	13,468	22,062
	大人	24,559	24,484	40,674	54,122	32,544	28,101	66,756
	高齢者	2,978	24,778	24,846	38,130	25,715	24,448	32,478
	心身障害者	899	1,763	1,225	3,244	1,893	2,967	4,095
	小計	52,942	68,627	82,363	124,767	69,019	71,350	134,569
団体利用		—	25,396	10,404	17,479	14,628	27,190	14,547
教室・大会等		—	1,363	592	4,001	802	1,958	3,108
障害者専用コース		—	751	756	1,673	881	1,379	1,006
自主事業		—	—	144	0	316	76	8,368
合計		52,942	96,137	94,259	147,920	85,646	101,953	161,598

(4) 文化財を保存・活用・継承する

●文化財保護の推進

区には、郷土の歴史や自然を伝える有形、無形の多くの文化財がある。文化財は、先人の歴史・文化等の貴重な遺産であり、当時の人々の生活を理解するために欠かすことができない。また、歴史・文化の正しい理解は、将来の文化の向上、発展の基礎となるものである。しかし、都市開発の影響を受け、貴重な自然や文化財が消滅しつつある。

これらの文化財を守るためには、区民一人ひとりの理解と認識を高めることが必要である。区では、かけがえのない文化遺産を保護・保存するとともに区民に紹介し、文化財に対する理解と認識の向上に努めている。

●文化財の指定・登録

練馬区文化財保護条例が昭和61年3月に制定された。条例に基づき、同年12月に学識経験者で構成された練馬区文化財保護審議会を設置している。

区指定・登録文化財は、保存・活用を図るために、区が事前調査を行い、文化財保護審議会の答申に基づき、所有者の同意を得て指定・登録される。平成24年度は1件の文化財を指定、6件を登録した。

※区内の指定・登録文化財については、230～231ページ参照。

●文化財保護のための主な事業

1 埋蔵文化財の調査・保存・活用

埋蔵文化財（遺跡等）は、開発行為による破壊の危険にさらされており、区では遺跡等の範囲の確認を行うとともに、その保護・保存に努めている。集合住宅建設などにより遺跡消滅のおそれがある場合は、発掘調査等を実施し、記録保存の措置をとっている。平成24年度は、遺跡地で工事を行う届出が94件、通知が6件あり、遺跡の有無を確認するための試掘等が79件、発掘調査が2件あった。

2 東京文化財ウィーク参加事業

「東京文化財ウィーク」は、都の呼びかけによる、国・都指定文化財の公開を促進する期間であり、24年度は、10月27日～11月4日までの9日間、区内9件の文化財（小野蘭山墓および墓誌、尾崎遺跡、練馬白山神社の大ケヤキ、三宝寺池沼沢植物群落、石神井城跡、丸山東遺跡方形周溝墓出土品、牧野記念庭園、東高野山奥之院、池永道雲墓）を公開し、伝統文化係でつぎの企画事業を行った。

・ねりまの発掘調査速報展

11月28日～12月20日

解説会11月28日、12月19日

302人参加

- ・尾崎遺跡出土品解説会

11月11日 29人参加

- ・講演会「人間国宝 桂盛仁 彫金の世界」

10月21日 55人参加

また、石神井公園ふるさと文化館で、つぎの企画事業を行った。

- ・「石神井城跡発掘パネル展」

10月27日～11月4日

- ・「東京9区文化財古民家めぐり古民家探検解説会」

11月17日～18日

3 郷土芸能ねりま座公演

区内で継承されている民俗芸能の普及・発展のために公演会を開催し、祭囃子連が4団体出演した（第13回）。

会場：生涯学習センター 320人参加

4 刊行物の発行

24年度は、つぎの刊行物を発行した。

- ・ねりまの文化財（年3回）

- ・埋蔵文化財調査報告27

5 文化財説明板、道標の設置

身近な文化財に対する区民の理解を深めるため、説明板などの設置を行っている。24年度は、新規1件、修繕4件を実施し、総数172件となっている。また、道標は29か所設置している。

6 文化財防火デー

昭和24年1月26日、法隆寺金堂壁画が焼損したことをきっかけとして、毎年この日を中心に全国的に文化財防火運動が行われている。

区では、各消防署と連携しながら、文化財愛護のPRに努め、平成24年度は、光伝寺、氷川神社（豊玉南）、本立寺、氷川神社（北町）の4か所で、一斉放水等の訓練を行い、862人の参加があった。

●文化財保護推進員

区内の文化財の現況を把握し、区民に文化財保護思想の普及・啓発を図るため、昭和63年2月に文化財保護推進員制度を設けた。

区では、文化財の所有者をはじめ多くの区民の協力の下に、文化財の保護・保存を行っている。

●尾崎遺跡資料展示室

春日小学校建設の際に調査した「尾崎遺跡」の資料展示室を、昭和58年、同小学校内に開設し、出土品約500点を展示している。平成24年度は延べ118人が来室した。

(5) 多様な文化・社会への理解を進める

●多文化共生と国際理解

区は交流会や各種講座を積極的に開催し、区民の国際理解を深めている。また、外国籍区民等への支援を充実させるなどして、外国籍区民が地域において快適に生活し、他の区民と交流できるための整備に努めて

いる。

平成24年度の事業内容はつぎのとおりである。

1 国際理解を深めるために

① 在住外国人との交流

在住外国人と区民との交流の場として、国際交流のつどい（1月）、国際交流サロン（原則第4土曜日他、10回）をそれぞれ開催した。

② 外国語講座

簡単な意思疎通がはかれるように、中国語、韓国語、タイ語の初級外国語講座を開催した。

③ 協働事業

区内NPOとの協働事業として、外国籍区民と日本人区民との相互理解のための交流事業を開催した。24年度は日韓お料理交流会、茶道体験交流会、スポーツ国際交流会等、5事業を開催した。

2 外国籍区民への支援

① 外国語による相談コーナー

毎週月曜日～金曜日の午後、外国語による相談コーナーを設け、区の事業・文化・学習情報の提供や簡単な日常生活上の相談を受けている。（英語・中国語・ハングル※ハングルは金曜日のみ。）

② 初級日本語講座

日本語が十分に話せない外国人を対象に、日常会話やひらがなの読み書きを学ぶ講座と、ひらがなやカタカナの読み書き等の基礎学習修了者を対象とした講座を2期ずつ開催した。

また、日本語を母語としない外国籍の子ども等のために初級の日本語指導の他、学校の勉強の補習も行うこども日本語教室を学校休業期間を除く毎週土曜日に開催した（夏季は8月下旬に6日間実施）。

3 ボランティアの登録

区の窓口で日本語を母語としない外国人への通訳を行う通訳・翻訳ボランティアや、日本語講師のボランティア登録制度があり、登録を随時受け付けている。25年3月31日現在の登録者数は通訳・翻訳ボランティアが410人、日本語講師ボランティアが170人である。

●海外友好都市等との交流

1 北京市海淀区

昭和63年に「都区市町村長訪中団（団長・練馬区長）」が北京市を訪問以来、海淀区との交流が進められてきた。

平成4年10月13日に、海淀区長を練馬区に招き「友好・協力交流に関する合意書」の調印を行った。

以降、この合意に沿って、教育・文化・スポーツなどの分野で交流を進めている。友好交流10周年にあたった14年には海淀区に桜を寄贈し、9月には区役所本庁舎アトリウムで「友好交流10周年記念写真展」を開催するなど各種の記念事業を行った。11月6日には練馬区長が海淀区を訪問し、改めて「友好・協力交流に関する

る合意書」の調印を行った。

友好交流15周年を迎えた19年は、7月に練馬区立美術館で「練馬区・北京市海淀区友好文化交流展」を開催し、10月には区役所本庁舎アトリウム、12月には練馬文化センターギャラリーで「友好交流15周年記念写真展」を開催した。11月には練馬区議会代表団が海淀区を訪問し友好を深めた。

20年1月には友好交流15周年と練馬区独立60周年を記念して海淀区から記念碑が寄贈され、除幕式を開催した。

23年10月には公募区民（13人）による親善訪問団（5年から実施）を海淀区へ派遣した。

24年は友好交流20周年を記念して、8月に練馬文化センターで海淀区少年少女合唱団と練馬児童合唱団による合同演奏会を開催し、9月には区民による練馬区スポーツ交流団（14人）を海淀区へ派遣し交流を深めた。

2 イプスウィッチ市

昭和63年10月に練馬区国際交流友好都市提携調査団がオーストラリアを訪問して以来、クイーンズランド州イプスウィッチ市との交流を進めている。

平成5年から区立中学校の生徒をイプスウィッチ市へ派遣している。

6年10月15日には、イプスウィッチ市長を練馬まつりに招き、「友好都市提携に関する合意書」の調印を行った。

13年5月には、イプスウィッチ市のネリマガーデンが開園し、練馬区長、区議会議長が開園式に出席した。

16年10月には練馬区長がイプスウィッチ市を訪問し、「友好都市提携10周年に関する合意書」の調印を行った。

友好交流15周年を迎えた21年は、11月に区長、区議会議員団がネリマガーデンに建設された茶室の完成式典に出席し、今後の交流事業の発展に向けて意見交換を行った。

22年4月には区職員と練馬区手工芸作家連盟がイプスウィッチ市自治体150周年に参加し、現地にて展覧会とワークショップを行った。

23年1月に洪水により甚大な被害を被ったイプスウィッチ市に対して3月に練馬区および練馬区議会から義援金を送った。5月にはイプスウィッチ市の小学生から東日本大震災のお見舞いメッセージ付きのぬり絵が届いた。

24年10月にはイプスウィッチ市長をはじめとする6人の友好訪問団が練馬区を訪れ、第35回練馬まつりに参加した。練馬区長とイプスウィッチ市長は友好交流20周年に向け、今後も交流を深めていくことを確認し合った。

3 諸外国との交流

9年11月には練馬区独立50周年・フランスにおける日本年などを記念し、フランスのストラスブール市に桜を寄贈した。10年5月には同市からマロニエの苗木100

本が寄贈され、区画街路3号線と中村小学校に植樹するなどの交流歴がある。

21年4月にフランス・アヌシー市とアニメ産業交流協定を締結した。24年は中国からの視察団を受け入れている。

4 海外友好都市等紹介事業

(1) 海外友好都市紹介講座

- ① 北京の世界遺産・観光（7月）
- ② オーストラリアの魅力～自然と文化・観光～（1月）

(2) 海外友好都市紹介パネル展

練馬区と海淀区およびイプスウィッチ市の交流について、パネルや写真等による紹介展示を区役所本庁舎アトリウムで行った。（7月、1月）

(3) 海外友好都市等紹介ケースの常設展示

海外友好都市およびアニメ産業交流を結んでいるフランス・アヌシー市を紹介するため展示ケースを区役所アトリウムに常設している。

5 ホームステイ・ホームビジット

区では「練馬区国際交流・多文化共生基本方針」に基づき、自治体間の交流のみならず、区民による主体的な国際交流を推進するため、ホームステイ・ホームビジット希望者を受け入れていただける家庭をボランティアとして登録している。

25年3月31日現在ボランティア登録数は105世帯である。

6 国内都市との交流

(1) 長野県上田市

昭和55年に長野県武石村（現上田市）に区立武石少年自然の家を開設したことから交流を進めてきた。

平成6年11月10日に「友好提携に関する合意書」の調印を行った。その後、18年3月に武石村を含む4市町村が合併し、新たに上田市となったため、練馬区長が上田市を訪問し、8月18日に「友好提携に関する合意書」の調印を行った。

上田市とは、照姫まつりや練馬まつりで物産の展示・販売による交流を行っている。

(2) 福島県塙町

区は塙町と災害時における相互援助に関する協定を締結しており、23年8月に東日本大震災でプールを利用できない塙町の小学生を練馬区に招き、大泉小学校と南町小学校のプールを利用してもらうなどの交流を行った。

区の支援に対して、塙町からヤマツツジの大株が寄贈されることとなり、区からも練馬の鏡（ツツジ）を贈ることとし、24年5月2日風呂山公園100周年記念式典に練馬区長、練馬区議会議長が出席した。

塙町とは、照姫まつりや練馬まつりの他、区立施設のイベントなどで物産の展示・販売による交流を行っている。